

県外派遣報告書

審判員名	今野 和昭	所属	実業団連盟
大会名	高松宮記念杯 第48回全日本実業団バスケットボール選手権大会		
期間	平成28年2月11日(木)～14日(日)		
会場	仙台市体育館、青葉区体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
1月30日	関東実業団／東京都実業団合同審判強化講習会	船橋市総合体育館(船橋アリーナ)	
2月11日	男女予選リーグ	仙台市体育館、青葉区体育館	
2月12日	同上	同上	
2月13日	女子予選リーグ、男子準々決勝	仙台市体育館	
2月14日	男女準決勝、決勝	同上	

【1月30日】 関東実業団／東京都実業団合同審判強化講習会			
【実技】 講師：嶋崎貴、細田知宏、針生淳男、加藤誉樹、本間充、布川正道(敬称略)			
【座学講習】 講師：嶋崎 貴 氏 / テーマ：「全国大会派遣審判員に求められるもの」			
<p>【全日本実業団バスケットボール選手権大会の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月の全実は公認審判の育成強化という位置付けである(9月のJICは上級審判の強化が目的) ・関東からの派遣人数は17人(うち、公認は12名) <ul style="list-style-type: none"> →関東は他ブロックから常に注目される ・大会4日間のうち、2日目までの割当は保証されており、成績により3日目の割当を決定 ・出場チームは会社からの「協力」を受け、会社の看板を背負って戦っている <ul style="list-style-type: none"> →この大会を目標に一年間戦っており、モチベーションが非常に高い 選手と審判のミスマッチをなくすため、「選手と同じモチベーションでコートに立つ」ことを実践すること <p>実業団は、普段から非常に高いレベルの試合に接することができ、しかも、上級以外の審判も全国大会に参加する機会に恵まれている。特に関東ブロックは多くの審判を派遣することができる。この機会を良い意味で捉え、今回の全実にチャレンジしていただきたい。</p> <p>今大会は、2人で協力するエリアについては、「相手に任せきりにならず、積極的に判定しに行く」ことを心がけていただきたい。(エリア3、5)</p> <p>具体的には、「リードの時に自分が受けるプレー」「トレイルの時に自分から始まるプレー」「トランジション中、2人の中で起きるプレー」について積極的に判定しにいてほしい。</p> <p>関東は、他ブロックに比べ、いろいろな意味で環境がいい。常に高いレベルの中で活動しているという「自覚」と「自信」を持って大会に臨んでほしい。</p>			
実技(強化試合)			
担当試合	対戦カード	三井住友銀行 VS 日立金属	主審 副審
	相手審判	村田 真 氏 (東京)	
ミーティング内容		主任 細田 知宏 氏 (東京)	
<p>【細田氏の講評】</p> <p>終始競ったゲームだったが、4Q途中でゲームの流れが変わった瞬間があった。印象としては、それに対応しきれなかった感がある。</p> <p>2人(村田・今野)ぐらいのレベル(経験値)なら、試合後に、その試合についての検証だけに終始してほしくない。もう一つ上のレベルで物事をとらえてほしい。「できた」「できなかった」「よかった」「よくなかった」ということで終わらせないように)</p> <p>自分のエリア外からのプレーについて、積極的に判定すること。軽い接触でもシリンダーを超えたものについては影響を考えるのではなく、取り上げるべきある。</p>			
全国大会に向けて			
<p>全実は、関東実業団で活動するようになってから常に目標としていたものである。</p> <p>今回初めての参加となるが、関東での経験を生かし、雰囲気のにまれないよう強い気持ちで臨み、3日目の割当をもらえるよう、最善を尽くしたい思う。</p>			

全日本実業団バスケットボール選手権大会

全体審判研修会 講師：針生 淳男 氏

【目的】日本実業団バスケットボール連盟に所属する、審判員の審判技術・意欲向上を図る

【テーマ】「チームとプレーヤーに信頼され、観客に感動を与える審判員」の実践

1. ファンダメンタルについて

- ①審判は、いつでもどこでも、**ルールブックに従った正しい判定**をする必要がある。
- ②審判員のファンダメンタルとして、ルールブック／マニュアルで決められたとおりの表現をする。
 - ・時間を止める合図、笛の吹き方(3S:ストロング・ショート・シャープ)、アウトオブバウンズの判定時の注意事項 等々
 - ・ファールの判定では「接触の事実があること」「どちらかに責任があること」「有利・不利が発生したこと」の3つの事象が成立しているか常に意識する
- ③社会人を担当する審判員として、**意図したプレー**(悪いコンタクト)に対する判定能力を高める。

2. グループディスカッション ～A級になるために習得すべきこと、ならびに実践すべきこと～

具体的な目標を持つことが大事である。
判定の一貫性・・・意外とアバウトになってくるので、常に意識すること。
「実践すること」を習慣に！

実技①(予選リーグ)

担当試合	期 日	平成28年2月11日	男子	女子	
	対戦カード	NOK熊本	VS	日本無線	主審 副審
	相手審判	浅野 準治 氏 (東海)			

ミーティング内容 主任 小野寺 浩 氏 (本部:東北)

プレゲームカンファレンスでは、①エリア3のトレイルからリードの受け渡しを明確にすること、②オフボールの競り合いを見逃さない、③トランジション中の判定を積極的にすることの3点についてを確認した。

個人的には、相手エリアから始まったプレーに対して、いい位置取りをすることを意識してゲームに臨んだ。

【小野寺氏の講評】

点差のついたゲームで緊迫感に欠けていたが、審判が選手の意識に合わせず最後まで一貫して判定できていた。全体的にゲームにマッチしていたが、トレイルの位置取りを研究した方がよい。このゲームでは、オートマティックな動きに終始していた部分があるが、インサイドでの攻防が激しいゲームの時は違った動きを入れるべき。

リードについては問題なかった。

【所感】

相手審判との連携もうまくいき、ストレスなく試合を終えることができた。チーム力に差がありすぎて単調なプレーの連続だったため、動きが法則化されたように感じる。

実技②(予選リーグ)

担当試合	期 日	平成28年2月12日	男子	女子	
	対戦カード	三井住友銀行	VS	東レ愛媛	主審 副審
	相手審判	河野 肇 氏 (近畿)			

ミーティング内容 主任 池松 和久 氏 (本部:四国)

プレゲームカンファレンスでは、①悪い手の使い方の整理、②エリア5、6の役割分担を確認した。

三井住友銀行の試合は今シーズン3回目なので、プレースタイルなどを相手審判にレクチャーし、試合に臨んだ。

【池松氏の講評】

選手、ベンチとの信頼関係が構築できないまま試合が終わってしまった。相手審判との判定基準の違いを感じて試合中にすり合わせをするべきだった。

ビッグマン同士の攻防が激しいゲームだったので、リードで右に行き判定しなければならないケースがあったはず。

【所感】

選手の能力、プレースタイル、チーム戦術を早い時間帯で感じて、右に行かなければならないケース、行った方がよいケース、トレイルに任せるケースを判断しなければならなかった。

全体の感想

今大会を経験して、全国大会の難しさを改めて実感した。普段関東で審判をするのと同じ感覚で試合に臨んでしまった(特に2試合目)ことが反省点である。

正直な話、今大会が最初で最後の全国大会だと思っていたが、3日目に進めなかったことが非常に悔しく、欲も出てきたので、来年も参加したいと強く感じている。

今年度、様々な体験をし、自分なりに成長を実感できた1年だった。来年度は今年の、そして今大会の反省を生かし、信頼される審判員を目指したい。

最後に、全日本実業団選手権大会の運営に尽力された東北ブロックの皆様ならびに、宮城県実業団連盟の皆様にお礼申し上げます。また、私を推薦して下さった関東実業団連盟の皆様、ありがとうございました。